

## 救い主が来られる

ルカ 1 章 67～80 節

はじめに

アドベント第 3 週を迎えました。今日はルカの福音書 1 章から「ザカリヤの賛歌」、来週クリスマス礼拝ではルカ 2 章からキリスト降誕の記事を学びます。ザカリヤは祭司、妻はエリサベツ、エリサベツは聖霊によって身ごもり、生まれてくる子はヨハネ、のちのバプテスマのヨハネです。

ルカは「すべてのことを初めから綿密に調べ、救い主キリストの道備えとして悔い改めを説いたヨハネの誕生のことから福音書を記しました。ザカリヤは高齢で不妊の妻エリサベツが身ごもることを信じることができず、口がきけなくなります。ヨハネが生まれたあと、口のきけないザカリヤは、天使ガブリエルが伝えたとおりに、生まれた子の名前はヨハネと書き板に書いたのです。

10 カ月も口がきけなかったザカリヤの口が開けたとき、父親になったザカリヤが聖霊に満たされて預言したのが、この「ザカリヤの賛歌」です。

### 1、 救いの角（68～71 節）

69～71 節『「ほむべきかな、イスラエルの神、主。主はその御民を顧みて、贖いをなし、救いの角を私たちのために、しもベダビデの家に立てられた。古くから、その聖なる預言者たちの口を通して語られたとおりに。この救いは、私たちの敵からの、私たちを憎むすべての者の手からの救いである。』

農耕民族である日本人にとって「救いの角」という表現は馴染がありません。遊牧民族であるユダヤの人々にとって「救いの角」という言葉は親しみのある言葉でした。「角」は力を表し、角笛が吹き鳴らされることも力や勝利を連想させるものでした。

「救いの角」という言葉は旧約聖書にしばしば用いられます。たとえば詩篇 18 篇 2～3 節にはこうあります。「主はわが巖 わが砦 わが救い主 身を避けるわが岩 わが神。わが盾 わが救いの角 わがやぐら。ほめたたえられる方。この主を呼び求めると私は敵から救われる。

「敵」や「私たちを憎むすべての者」は、旧約聖書では文字通りイスラエルの

敵を意味しますが、新約聖書では悪魔や悪霊を指します。武力で敵をうち滅ぼす聖戦の思想は新約聖書にはありません。イエス・キリストの十字架の福音は、イスラエルと異邦人の隔ての壁を取除き、敵を愛することを教えます。そこでは「敵」や「憎むすべての者」とは、罪の支配や悪しき霊の働きと考えます。現代のイスラエルがガザでジェノサイドを繰り広げることを支持するようなことではなく、このようなことを引き起こす人間の罪とその背後にある悪しき者の力からの救いです。

## 2、 契約を覚えておられる主（72～75 節）

続く 72 節以下では、神はご自身の契約覚えておられて、このような救いを与えて下さることが強調されます。

72～75 節『主は私たちの父祖たちにあわれみを施し、ご自分の聖なる契約を覚えておられた。私たちの父アブラハムに誓われた誓いを。主は私たちを敵の手から救い出し、恐れなく主に仕えるようにしてくださる。私たちのすべての日々において、主の御前で、敬虔に、正しく。』

旧約、新約の「約」とは「契約」のことです。古い契約は、エデンの園でアダムとエバに対して結ばれ、ノアと結ばれ、アブラハムと結ばれ、出エジプトの後にモーセを通して契約の民に律法が与えられ、ダビデと結ばれ、バビロン捕囚の残りの民と結ばれました。

人は契約についていつも不真実でしたが、神はご自身の契約にいつも真実でした。

レビ 26 章 42 節にはこうあります。「わたしはヤコブとのわたしの契約を思い起こす。またイサクとのわたしの契約を、さらにはアブラハムとのわたしの契約をも思い起こす。わたしはその地を思い起こす。」

そこには次のような約束もありました。

罪人となったアダムとエバを惑わした蛇に言います。「私は敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫との間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」（創世記 3 章 15 節）

神はアブラハムを祝福して言われました。「確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る」（創世記 22 章 17 節）

### 3、ヨハネの役割（76～79 節）

さらに 76 節以下には、生まれてくるヨハネの役割がうたわれます。

76～79 節『『幼子よ、あなたこそいと高き方の預言者と呼ばれる。主の御前を先立って行き、その道を備え、罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与えるからである。これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。』』

ヨハネの役割は、来たるべきキリストのために道備えをすることでした。彼が荒野で説いた悔い改めのバプテスマは、キリストを迎える準備でした。

やがて成長したヨハネは、ヘロデによって牢獄に囚われます。そこでイエスを証して言います。マタイ 11 章 9～10 節「そうでなければ、何を見に行ったのですか。預言者ですか。そうです。わたしはあなたがたに言います。預言者よりもすぐれた者を見に行ったのです。この人こそ、『見よ、わたしはわたしの使いをあなたの前に遣わす。彼は、あなたの前にあなたの道を備える』と書かれているその人です。」

### 3、 暗闇を照らし平和の道に導く

足早に全体を見て来ました。79 節に「暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。」とありましたが、「暗闇と死の陰」とはどういう状態か、「照らす」とはどういうことか、「私たちの足を平和の道に導く」とはどういうことか、改めて確かめましょう。

まず、「暗闇と死の陰」。これはイザヤ書 9 章 2 節をふまえています。「闇の中を歩んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く」。ヨハネはイエス・キリストを指して言います。「この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった」（ヨハネ 1 章 4～5 節）

「暗闇と死の陰」に相当する言葉は、71 節の「私たちの敵」「私たちを憎むすべての者の手」、74 節の「敵の手」、77 節には端的に「罪」と記され、これらが「暗闇と死の陰」と言い換えられています。

次に、「照らす」に相当する言葉を見てゆくと、68 節では「贖い」、69 節では「救い」、72 節では「あわれみを施し」、74 節では「救い出し」、77 節では「赦しによる救い」、78 節では「神の深いあわれみ」「そのあわれみ」。これが「照らす」ことの意味です。

そして最後に、「平和の道に導く」については 74 節から 75 節にこうあります。「恐れなく主に仕えるようにしてくださる。私たちのすべての日々において、主の御前で、敬虔に、正しく」。ここに「平和の道」があります。

ザカリヤは、罪が贖われ新しい生き方が始まることを、生まれてくるヨハネは宣言すると、賛歌をうたい上げるのでした。これは旧約聖書最後の預言者マラキによって預言されていました。

マラキ 3 章 1 節「見よ、わたしはわたしの使いを遣わす。彼は、わたしの前に道を備える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、彼が来る。——万軍の主は言われる。」そして、マラキ 4 章 2 節「しかしあなたがた、わたしの名を恐れる者には、義の太陽が昇る。その翼に癒やしがある。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のように跳ね回る。」

おわりに

80 節「幼子は成長し、その霊は強くなり、イスラエルの民の前に公に現れる日まで荒野にいた。」

来週、クリスマス礼拝では続く 2 章 1～7 節から「飼葉桶のキリスト」と出してクリスマスのメッセージをいたします。10 月に来られた東京オンヌリの姉妹も友人を誘って来たいと連絡をくれました。皆さん、ご家族にも声をかけてお集まりください。